

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	06	01	04	0401	農畜産物生産向上事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-1	農林業の振興			
	施策	1	農業生産の支援			
目的	畜産物の価格安定					
対象	市内の酪農業、養豚業、養鶏業、肉用牛肥育業					
意図	<ul style="list-style-type: none"> 生産乳量・乳質の改善、向上 養豚業、養鶏業、肉用牛肥育業の経営安定 					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<ul style="list-style-type: none"> ○家畜改良増殖対策支援（乳用牛群検定） 効率的な飼養管理のため、乳用雌牛群の検定普及・後代検定に対して支援 ○養豚経営安定対策事業 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成 ○ブロイラー価格安定対策事業 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成 ○肉用牛肥育経営安定対策事業（新規） 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成 						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 ○補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 乳用牛群検定頭数	頭	計画		600	600	
		実績		480	500	
② 養豚経営安定対策事業対象頭数	頭	計画		30,500	30,600	
		実績		29,312	30,723	
③ ブロイラー価格安定対策事業対象羽数	千羽	計画		778	954	
		実績		804	824	
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 生産乳量	t	目標		5,000	5,100	
		実績		5,247	5,143	
② 肉豚出荷頭数	頭	目標		30,500	30,600	
		実績		31,092	30,723	
③ ブロイラー出荷羽数	千羽	目標		778	954	
		実績		804	824	
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
東日本大震災による消費の減退や放射性物質検査の影響から低迷した畜産物価格は、近年回復傾向にあるものの、急激な円安に伴う飼料価格の高騰等、畜産経営を取り巻く環境は依然厳しい状態にある。 成果目標は、平成27年度花巻農協畜産販売計画書、平成27年度養豚経営安定対策、平成27年度ブロイラー価格安定対策を参考とした。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	国の補助事業により、乳用牛の改良を推進している。 豚肉・鶏肉の価格形成は不安定であるため、県・市町村・生産者団体が一体となって価格下落時の生産者へ及ぼす影響を緩和する策を講じている。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	乳用牛群検定（能力検定）への参加による高能力牛の確保により目標生産乳量が維持される。 豚肉・鶏肉の価格差補てん事業により、価格下落時への対応が可能となっている。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない <input type="checkbox"/>	
効率性	事業費・人件費の削減余地	家畜改良増殖対策事業は県事業であり、補助率は県要綱で規定されている。 豚肉・鶏肉の価格差補てん事業は養豚業及び養鶏業に対する市の唯一の事業である。 当該事業は県及び市の事業であり、事業申請から補助金支出までの一連の
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	事業実施しようとする酪農家、養豚業者、養鶏業者を対象としている事業であり公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
乳用牛群検定事業による高能力牛の確保を図るため検定事業への加入を促進する必要がある。 豚肉・鶏肉の価格差補てん事業については、養豚業者・養鶏業者の経営の安定を図る上で有効な対策であることから継続が必要である。		

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	06	01	04	0401	農畜産物生産向上事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-1	農林業の振興			
	施策	1	農業生産の支援			
目的	畜産物の価格安定					
対象	市内の肉用牛肥育業					
意図	肉用牛肥育業の経営安定					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<p>○家畜改良増殖対策支援（乳用牛群検定） 効率的な飼養管理のため、乳用雌牛群の検定普及・後代検定に対して支援</p> <p>○養豚経営安定対策事業 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成</p> <p>○ブロイラー価格安定対策事業 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成</p> <p>○肉用牛肥育経営安定対策事業（新規） 生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	○補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	肉用牛肥育経営安定対策事業対象頭数	頭	計画		1,410	
			実績		963	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	肉用牛肥育経営安定対策事業加入戸数割合	%	目標		100.0	
			実績		87.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
<p>肉用牛肥育経営安定対策事業（牛マルキン）は、生産コスト上昇時・枝肉価格下落時に農家が安定して経営を行える環境にあるかを評価するため、市内肥育業者に占める当該事業への参加戸数の割合を指標とした。</p> <p>市内の全肥育業者が事業に参加している状態が好ましいため目標値は100%と設定したが、牛マルキンは任意加入で必要と感ぜない農家もいることから目標を下回った。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	肉用牛の生産コスト・価格形成は不安定であるため、国・生産者が一体となって生産コスト上昇時・価格下落時の生産者へ及ぼす影響を緩和する策を講じている。
	<input type="radio"/> 妥当である 見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	肉用牛の価格差補てん事業により、生産コスト上昇時・価格下落時への対応が可能となっている。
	<input type="radio"/> 向上余地がある <input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	肉用牛価格差補てん事業の補助率1/8は、類似する豚・鳥価格差補てん事業との調和を考え、同率に設定されている。また、他市町村の類似事業の補助率よりも低く設定されている。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある <input type="radio"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	事業実施しようとする肉用牛肥育業者を対象としている事業であり公平である。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="radio"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
肉用牛の価格差補てん事業については、肉用牛肥育業者の経営の安定を図る上で有効な対策であることから事業の継続が必要である。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	01	04	0401	農畜産物生産向上事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,529	4,575		2,046
財源内訳	国・県	459	352		△ 107
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,070	4,223		2,153

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部重点施策における目標
収益性の高い農畜産物の生産を進める。

事業開始の背景・経緯
乳用牛群検定の利用促進を図り経営分析の一助とするため。
畜産物の価格安定制度の生産者負担分の一部を負担し価格安定制度の加入を促進するため。

事業概要
○家畜改良増殖対策支援（乳用牛群検定）
効率的な飼養管理のため、乳用雌牛群の検定普及・後代検定に対して支援
○養豚経営安定対策事業
生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成
○ブロイラー価格安定対策事業
生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成
○肉用牛肥育経営安定対策事業（新規）
生産者の負担金を軽減するため、価格差補てん金制度積立金に対し助成

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
対象農家個々への巡回等により、事業内容及び事業の有効性を周知する。

担当部署 部名 農林部 課名 農政課 担当係長 小原慶悦 内線 6-290

(単位：千円)

【事業手法の詳細】…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

○養豚経営安定対策 2,673千円

●養豚基金の概要

●積算根拠 生産者負担(500円)の1/8を補助

	契約頭数	積立単価	補助金
系統	16,080	87円	1,398,960
商系	10,050		874,350
直接	4,593		399,591
計	30,723		2,672,901

●補てんの仕組み
1頭当たりの粗収益と生産コストの差額の8割

○ブロイラー価格安定対策 257千円

●補助金額：1羽あたり積立金5円(0.5/8(0.3125円)を助成)

	補助率	助成金額	
県	1/8	0.6250円	補てん金 (保証基準価格－指標価格)×90%×補てん対象羽数
市	0.5/8	0.3125円	
生産者	3/8	1.8750円	
ブロイラー組合	3.5/8	2.1875円	
計		5.0000円	

対象羽数 824,000羽 (2戸)

0.3125円 × 824,000羽 = 258千円

○家畜改良増殖対策（乳用牛群検定） 352千円

乳用牛雌牛群の能力検定及び検定農家の指導を行い、乳用牛の飼養管理の改善を図るとともに、後代検定に係る調整交配を行い、泌乳能力等、優秀な能力を有する雌牛群の選抜確保を行う。
花巻乳用牛群検定推進協議会が行う乳用牛群検定に係る経費の44.2%以内（県補助）

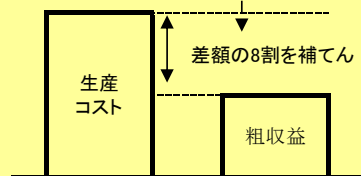
○肉用牛肥育経営安定対策事業（新規事業） 1,293千円

肥育素牛価格・飼料価格の高騰により、肉用牛肥育の生産コストは増加傾向にある。本事業は生産コストが粗収益を上回る場合にその差額の8割を補てんし、肉用牛肥育経営の安定化を図る。

●肥育安定基金の概要

●積算根拠 生産者負担(18,000円)の1/8を補助

	契約頭数	補助単価	補助金
系統	645	1250円	807,125
		2125円	
系統外	318	1250円	485,625
		3125円	
合計	963		1,292,750



●市補助金交付対象
平成27年4月～平成28年3月に納付される生産者積立金に対して助成